

震災復興へ 共に歩む

あの日の記憶

平成23年3月11日午後2時46分に三陸沖を震源に発生した「東北地方太平洋沖地震」は、マグニチュード9.0という国内観測史上最大のものでした。大津波や原発事故などの深い爪痕を残し、その後の社会のあり方を一変させた1000年に一度と言われる巨大な地震でした。

大崎市内では最大震度6強（古川・鹿島台・田尻地域が6強、松山地域が6弱、三本木・岩出山・鳴子温泉地域が5強）の長く強い揺

れが発生しました。18人の尊い生命が奪われ、建物の被害は1万2168棟におよびました。道路が崩れ、電気や水が止まり、通信手段やガソリン・灯油など燃料の供給も制限され、食料もままならない状況に陥りました。最も多い時期で92カ所の避難所が開設され、最大で1万1082人の市民が、避難所生活を余儀なくされました。

「自分たちはこれからどうなってしまうのか・・・」市民の誰もが、先の見えない不安な日々を過ごしました。

この先、震災復興がどれだけ進み、時がどれだけ経

とうとも、あの時わたしたちは何を感じ、どのように動き、その結果どうなったのか、良かったことも、悪かったことも、永く後世に伝え続けなければならぬ、大切な記憶となりました。

日常を取り戻しつつある一方で

あの日から丸4年が経ちます。傷はまだ完全には癒えていませんが、震災の教訓を胸に、わたしたちは、少しずつ着実な歩みを続け、震災以前の日常生活を取り戻しつつあります。しかし、津波被害や原発

事故による放射能汚染などで故郷を離れ、大崎市内で新しい暮らしを始めた人たちの中には、ふなれた地域で、気軽に頼れる人もいない暮らしに、不安を覚える人もいます。

いま、多くの被災地では、仮設住宅や災害公営住宅へ入居した人同士、あるいは住宅へ入居した人たちと地域コミュニティとの良好な関係をいかに構築していくかが、課題のひとつとして挙げられています。

ごみ集積所がどこかわからない

市内各地域を巡り、生涯学習の体験を通じて大崎市を知ってもらい、同じような境遇の人同士、気兼ねなく情報交換し交流を深めることを目的とする「避難者交流会」をこれまで3回実施しています。

情報交換の場では、「自分の住んでいる行政区のルールや、ごみ集積所がどこにあるかわからない」という日常生活で困っていること、「毎日当たり前のよ

うに目の前にあった海が見られなくなってしまうのはさびしい」「内陸部特有の気温の差に驚いた」といった自然環境や文化風土などの違い、「近所に知り合いもなく、毎日テレビばかり見て過ごしている」「いろいろな教室に参加して出合いを求めている」「気軽に集えるお茶っこ飲み場があれば楽しい」といった人との交流のことなど、大崎市で暮らし始めた中に、日々感じる率直な不安や、こうあってほしいという希望の声が聞かれました。

地域コミュニティの一員として

現在、古川・鹿島台・田尻地域に合わせた6カ所の災害公営住宅を建設しています。1月末までに4カ所（古川駅東住宅、古川駅前大通住宅、古川七日町住宅、田尻沼部住宅）が完成し、新しい生活も既に始まっています。

思いもよらぬ災害によって多くを失い、生まれ育った、あるいは住みなれた地

から移住を余儀なくされた皆さんにとって、大崎市への移住や災害公営住宅への入居・転居が、人生の大きな決断であったことは、想像にかたくありません。しかし、入居者は、必要以上に、大変な思いをしてきた特別な存在とされることを決して望んでいません。これからの地域コミュニティを支える担い手、地域の大切な仲間の一人なのです。

災害公営住宅への入居が始まった現在、市は、人と人、人と地域をつなぐため、入居者の皆さんや地域の皆さんが交流できる場、きっかけづくりを、地元町内会やボランティアの皆さん、関係機関の皆さんと力を合わせて進めています。

目指すべきは、これまでも行ってきた一人ひとりが尊重されるコミュニティづくりの延長です。

互いに支え合える関係を築き上げ、真の震災復興を目指し、共に歩んでいきましょう。

平成23年度から平成29年度のおおむね7年間を達成期間とし推進している「大崎市震災復興計画」。この計画に掲げた災害公営住宅の建設は、6カ所のうち、4カ所がすでに完成し、入居者の皆さんの新しい生活が始まっています。

現在、この災害公営住宅に入居する人と地域コミュニティとの新しい関係性の構築が始まろうとしています。真の震災復興に向けて共に歩んでいくために。

震災から丸4年。新たな震災復興のステージに差し掛かった大崎市の動きを紹介します。

☎ まちづくり推進課
☎ 23-5069

大崎市の災害公営住宅



▲古川七日町住宅

▲古川駅前大通住宅

住宅名	整備戸数	入居開始
古川七日町住宅	30戸	平成27年2月～
古川駅東住宅	35戸	平成26年11月～
古川駅前大通住宅	35戸	平成26年11月～
古川十日町住宅	20戸	平成27年度完成予定
(仮称)鹿島台住宅	45戸	平成27年度完成予定
田尻沼部住宅	5戸	平成26年9月～

今回市内に建設した(している)災害公営住宅は6カ所。東日本大震災で自宅を失った人たちが入居できる住宅です。

☎ 建築住宅課 ☎ 23-8054

新しいコミュニティをはじめよう!

七日町中央通り商店街振興組合と七日町町内会の取り組み

古川七日町住宅の鍵引渡式が行われた1月17日、入居者を歓迎するイベントが、七日町中央通り商店街振興組合と七日町町内会の主催で開催されました。

つきたての餅や豚汁が振る舞われたほか、無料で参加できる「新春開運ワークショップ」や「軽トラふれあい市」も行われ、入居者も地域の人とも隔たりなく自由に参加できる、まつりのような雰囲気の中、多くの人で賑わいました。

住宅に併設された集会所を活用し、多くの支援団体などの力も借りて、災害公営住宅の皆さんと共に歩むコミュニティであることを地域内外に広く知ってもらう、すばらしい取り組みとなりました。

